

長野県革新懇ニュース

2021 年 2 月号
発行日 2 月 10 日
会 費 2,000 円
購読料 3,000 円 (送料込)
振 替 00510-3-15971

261

発 行 日本と信州の明日をひらく県民懇話会
(長野県革新懇) 発行人：山口光昭 編集長：高村裕
〒380-8790 長野市県町 593 高校教育会館内
TEL：026-234-1231 FAX：026-234-2219 メール：mail@nagano-kakushinkon.com

==== 今号の主な記事 =====

- 1 面 相川陽一さん、村山隆さんインタビュー
- 2 面 1 面続き、「近現代信州の歴史回廊」杉山洋子さん
- 3 面 核兵器禁止条約について 今井和子さん
書籍の紹介、読者の声、漢字パズル
- 4 面 雨よ降れ 老兵は死なず? 窪島誠一郎さん
写真で辿る信州と戦争 受難の歴史を刻む新生病院 北原高子さん
映画評論『82 年生まれ、キム・ジョン』内山到さん

長野県革新懇

検 索



左：村山隆さん 1945 年、上田市塩田平下之郷生まれ。大学用地提供農民の子孫。右：相川陽一さん 1977 年、千葉県生まれ。

地域から学術会議問題に 抗議の声をあげよう

「政府による日本学術会議会員の任命拒否に抗議し、
撤回を求める共同声明」にかかわって

村山隆さん・相川陽一さん

(ヤマンバの会事務局長・長野大学環境ツーリズム学部准教授)

学術団体の独立性は 尊重されるべき

Q 学術会議の任命拒否問題をどのようにお考えですか？

◆相川 大学院に在学していた時期に、恩師から、研究者として生きていくうえで、一生の指針にすべき教えをいただきました。それは「学者は書いたことと言ったことのみで評価される」という言葉でした。「学者は論文や学会発表で評価されるのだから、たゆまず研究を進め、論文執筆や研究発表を継続することが必要だ」という意味です。約 20 年たったいま、思い返すと、この教えに、もうひとつの意味を込めることができていると思います。それは、肩書きや権威、経済力の有無といったもので学問が評価されてはいけないということです。誰が言ったかではなく、何を言ったか、何を書いたかが重要であるという精神です。研究は研究の内容そのもので評価されなければならず、研究者コミュニティ内の相互批判によって学問は成り立つという学問研究の公平なルールのことです。ここでいう研究者は職業的研究者に限りません。例えば、何十年も研究しているベテラン研究者であっても、若手から適切な批判がなされれば、その批判を受け入れる、自分にとってたとえそれが不都合なことであつたとしても、適切な議論であれば受け入れてよりよい議論にしていける、これが学問のあり方だと思っています。

現実の社会では、権力やお金をたくさん持っている人とうとうと周囲に相談しました。有り難いことに、小さな大学ですが職場で 3 人の教員が新たに呼ば

は、何が望ましいのか、何が正しいのかということに専門家が相互に検証しながら進んでいく営みです。このような学問観を敷衍して、学問とは、例えば政治や経済の世界が、学問の側から見て危うい方向に動き出した時に、非力であってもそれを止める使命と潜在的な力を持っているとも思います。

権威や動員可能な経済力の多寡から離れて、学問は自立的に存在しなければ学問たり得ないという学問の原理原則は、極めて根底的な条件だと思っています。大学やさまざまな学術団体の自立性や独立性は尊重されなければならないと考えます。

地域大学らしい 抗議の方法を考えた

Q 大学有志と地域社会の有志の共同声明に至った経緯をお聞かせください。

◆相川 2020 年 10 月に、日本学術会議会員の推薦者のうち、6 名の任命が拒否されたことを報道で知り、とてもないことが起きたと驚きました。ただ、私はその頃、コロナ禍で後期の授業をどうやって運営しようかと悩んでおり、そのことで頭が一杯でしたので、行動を起こすことは考えていませんでした。そうした折、同僚の久保木匡介さんが声をかけてくれたことで、この問題を脅威に感じている人は他にもいるのだと思いました。この問題について話せる仲間はい人になりましたが、率直に言っても心細かったです。そこで、何か共同声明を出そうと周囲に相談しました。有り難いことに、小さな大学ですが職場で 3 人の教員が新たに呼ば

かけ人に名のりを上げてくれて、5 人になりました。互いに仕事も生活も抱えていますので、簡単に声明が出せるわけではありません。5 人いれば助け合って何とかするのではないかと考え、共同声明をつくることにして、「政府による日本学術会議会員の任命拒否に抗議し、撤回を求める共同声明」をつくりました。

私はどちらかというと、研究・教育一本のように生きてきた身です。論文は書いても、社会的な発言はほとんど未経験です。社会問題について、社会に何らかのメッセージを発信するというのは、私のような経験のない者には大それたことという思いもありましたが、数年前に長野大学で、安保法制反対の声明が教職員有志から出されたときに賛同したことがあり、そのときのささやかな経験を思い出しながら、日本学術会議の会員任命拒否にかかる問題についても協力して何かできるのではないかと考えました。

ところが、大学はコロナ禍で入構に制限があり、以前の安保法制時の声明のように学内に貼り出しても、誰も見てくれないだろうという意見が出て、確かにその通りと思いました。これまでとは別の方法を考える必要がありました。加えて、これが大事なことです。学問の自由は特殊に大学に所属する研究者だけのものではなく、学問に関わるすべての人々のものではないかと考えました。私は学生時代に民衆や社会学を学んだ経験があり、インタビュー調査等で、いまでも地域の多くの方に教えられるながら研究者として成長させていただいています。そうした経験から、「学問の自由」を大学の中だけに閉じ込め

たかのような議論にしてみました。この活動はもしかしたら展覧が開けるのではないかと感じました。10 月 25 日までに 190 あまりの個人と団体から賛同を得ることができました。

例えば、信州にはたくさんの方史学会があります。大学の職業的研究者だけでなく、学問を職業としない多くの方々が日々、研究活動をしています。信州の歴史的な風土を考えたとき、この日本学術会議の会員任命拒否という問題に関する声明を地域の皆さんに呼びかけたら賛同してくれる方がいるのではないかと考えました。そこで、声明は大学の有志と地域の有志の共同声明と位置づけて、長野大学のある上田市をはじめとした信州各地の方々に共同声明文をお送りし、賛同を募ろうという動きが生まれました。

慣れない活動でしたので、呼びかけ人で声明文を作成し、同時に、地域でお世話になつてい

る長野大学の応援団のような市民の方々に相談しました。例えば、本日同席してくださいとい

う村山さんは、相談させていた

だいたお一人です。村山さんは

1966 年に長野大学の前身にあ

たる本州大学が上田の地に開

学した折に農地を提供なさった

農家のお生まれで、長野大学を

熱心に応援してくださいとお

たかさんの賛同をいただきました。「この活動はもしかしたら展覧が開けるのではないかと感じました。10 月 25 日までに 190 あまりの個人と団体から賛同を得ることができました。

これから活動に
展望を開く呼びかけ

Q 共同声明の取り組みについて地域住民の立場からどのようにお考えですか？

◆村山 私は今、学術会議の任命拒否問題に関係するインタビュに同席していますが、そのことがとても大事だと感じています。私はこの塩田平の一住民です。そして又、環境市民団体である「ヤマンバの会」の事務局長をやっています。そういう人間と長野大学の先生が同席して、この問題について語っているということが非常に意義あることだと思っています。

学術会議の問題について地域住民が加わるような「状況」を作ったのは他ならない長野大学の先生方です。もしそういうことがなかったら、私たちはこの問題についてただ黙々として、力にも声にもなれなかったわけです。ところが大学人だけではなく、広く地域住民にも呼びかけるという共同の声明が発信されたわけです。研究者の皆さんは命がけで仕事をして、自分の生きがいとして考え、この問題はけしからんとし、学問の自由や憲法にも違反していると主張するわけです。一市民としての私の捉え方としては、あれは完全なパージ(追放)です。これを許したら、どういうことになってしまふか。学術会議だ

【2面に続く】